

雨の日の大冒険

久慈市立久慈小学校 四年

西館 にだて
理士 りお

ぼくは、本を読むのが好きだ。一番は図か
んだが、物語も好きだ。この本を選んだ理由
は、本屋の中に雨がふった。本が大さな
いになるのではないかと、面白い想像が浮
かんできた。

この本を読み始めたのは、八月の雨の日。
ぐうぜんにも、本の世界も雨。まるで、ぼく



の世界が本の世界に近づいたような気がした
この物語は、すき間の世界の話。雨ふる本屋
の店主は、世界をほろぼすのろいをかけると
いう「絶めつかせ」にかかっていた。特效
薬の火山コシヨウを探す旅に、ルウ子と妹は
まきごまれていく。

妹と一緒にふしぎな国に来てしまっ
たルウ子は、ぼくの兄みたいた。兄はいつも自
己中心的な考えで、自分がよければいいと思
っているところがあ。ぼくは、妹のサラム

たいに、困っている人達を助けてあげるべき
だと思っただ。ぼくも二人兄弟だが、この本の
姉妹も妹の方がしっかりしていると思ひ、ほ
くほくとうれしくなっただ。

読み進める内に、本屋で出会ったブソリル
も、主人公に似ているなあと思ひ始めた。
いじめるなことを言ったりするブソリルだ
が、きつと、たださみしいだけなのだ。ぼく
の兄と似ている。ルウ子も、しっかり者の妹
といると、なぜかいじけた考え方をしていた。



ぼくたち兄弟とそっくりな二人なので、ぼく
は、二人に仲良しになつてくれと願ひながら
読み進めた。

ルウ子が、巨大な白へびの所へたどりつい
た場面では、ブソリルは、ルウ子の分離し
た未来だと分かつた。ぼくは、予想が当たり
ソワソワとうれしくなつた。ブソリルのマ
とを似ているなと思つたり、仲良くなれと願
つたりしたのも、元はルウ子だつたからなん
だ。知らず知らずの内に、ブソリルは、ル

1
5
10
15
20

ウ子にとって放っておけない存在になっ
 た。だから、ルウ子が、ブンリル
 のために本を探すと言ったとき、ぼく
 の中のルウ子は急に光り始めた。
 光るべきことを見つけた。目
 的に向かっ、てがんばる人を見
 ると、ど、うしてこんなに見えな
 くなるのだろう。か、と
 思うくらい、引き付けられた。
 結末は、ルウ子が目指したよう
 にはななかつたけど、みんなの
 協力のおかげで、めでたしとなっ
 た。



ルウ子は、この大冒険で何を見つ
 けたのでもないか。ルウ子は気が
 ついていないかもしれないが、
 ぶんりルを助けようとする一
 生けん命さに、ぼくは心打たれ、
 そんなにも応援したくなっ
 たのだ。ぼくも、だれかに
 応援してもらえようになりたい
 と思っただ。ぼくは、何に向か
 っ、てがんばるか、は、もう決
 めている。ぼくのぼくは、これ
 からで、ルウ子のように光るか
 どうか、自分次第だ。

1
5
10
15
20